

普及活動情勢報告（平成29年10月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

土佐文旦産地の担い手育成・・・篤農家講演会「今若者に伝えたいこと」・・・



9月29日、JA高知はた宿毛支所で土佐文旦の後継者と女性農業者を対象に、外部講師を招き「植物生理学を基本においた果樹経営」と題した講演会を行い、生産者27名が参加しました。

参加者からは、「今後、同講師から継続して指導を受けたい」、「講師の栽培を視察したい」などの意見が出され、課題とした植物生理学に対する関心を高める事ができました。

農業改良普及課は、講演会に対する反響が大きかったことから、今後後継者や女性農業者の要請に応じて同講師の講演会開催や視察研修を実施していきます。

組織の相互研鑽をしました！・・・集落営農組織連絡協議会開催・・・



9月20日、四万十市西土佐地区で集落営農組織連絡協議会を開催し、6組織9名が参加しました。

今回の協議会では、西土佐西部営農組合と（農）四万十川営農組合の施設で現地研修会を行いました。

参加者は、施設・機械を見ながら機械の上手な使い方や組織運営について意見交換を行い、施設・機械の使用法について「早速やってみる」との声も聞かれました。

農業改良普及課は、今後、県外への先進地視察研修も予定しており、集落営農組織が地域の担い手として発展していく機会を提供していきます。

6次産業化を目指して・・・黒潮町「しおかぜ」がNHKで紹介されました・・・



9月25日、29日に6次産業化セミナーの講座生である、黒潮町の「しおかぜ」グループがNHKの取材を受け、10月4日に「こうちいちばん」の番組の中で、6次産業化の取組特集の一事例として、放送されました。

農業普及課は、放送の参考になる資料作成や試作実習の支援を行いました。また、グループで栽培するサトウキビの黒糖を原料にした新たな加工品も検討しています。

農業改良普及課は、今後も商品の試作や加工場のレイアウト、衛生管理面、包装形態などについての助言を行い、商品の完成に向けて支援します。

子ども達に農業を知ってもらいたい！・・・宿毛4Hクラブ出前授業・・・



10月17日、宿毛4Hクラブは、松田川小学校で3年生から6年生、合計28名を対象に出前授業を行いました。

クラブ員は『豚のおはなし』と『イチゴのおはなし』と題して授業を行い、豚の飼育過程や養豚農家の一日、イチゴの栽培や作業など、クラブ員が実際に行っている仕事について紹介しました。

クラブ員からは「子ども達に農業のことを知ってもらえて嬉しい」、「授業をするために改めて自分も勉強し直す機会になり、自分のためにもなった。今後もこのような活動を続けていきたい」などの声がありました。

農業改良普及課は、子ども達への農業理解を深めていくために、4Hクラブの地域貢献活動を支援していきます。

ゆず産地の信頼を高める！・・・JA高知はた中村支所黄玉ユズ目ならし会・・・



10月17日、四万十市のJA高知はた中村支所選果場で、黄玉ユズの目慣らし会が行われ、生産者15名が参加しました。

今年は初めて冬至と小袋規格を出荷する生産者がいるため、JAと園芸連からは、規格の判断のしかたを個別に詳しく説明しました。

農業改良普及課からは、次週の台風接近に備えて黒点病などの病害虫防除や腐敗対策について説明しました。また、処理施設や機器を使わない簡易カラーリング技術の試験結果について情報提供し、次年度の導入を推進しました。

農業改良普及課は、今後収穫期の天候を見ながら、腐敗防止対策を徹底していきます。

女性農業者の農力向上・・・はちきん農業大学幡多地域講座（農泊のすすめ）・・・



10月18日、四万十市蕨岡の宿泊受け入れ農家において体験研修を行い、5名が参加しました。

農業改良普及課は、当日のプログラム作成、宿泊受け入れに係る関係法令などの情報提供を行いました。

参加者から感想を發表してもらったところ、「思ったより気軽にできるものだ」、「長年農業に携わってきたが、新たな事が出来そうな気持ちになった」、「いいチャンスもらった」という声があり、農泊への関心を高めることができました。

農業改良普及課は、今後管内各市町村の担当部署と連携し、受け入れ登録農家の増加、農業農村のファンづくりを支援していきます。

キュウリの増収に向けて・・・JA 高知はた三崎支所キュウリ現地検討会・・・



10月19日、土佐清水市の3ほ場で現地検討会を開催し、生産者15名が参加しました。

農業改良普及課からは、つる枯病対策と農薬のローテーション散布について説明し、種苗会社からは、品種特性と力枝の孫枝更新について説明がありました。参加者からは、力枝の孫枝への更新タイミングや農薬の天敵への影響について質問が出るなど、栽培管理への意欲の高まりを感じました。

農業改良普及課は、今後も定期的に現地検討会を開催し、増収に向けた情報の発信を行っていきます。